国際総合学類

	年　次	定　員	志　願　者	受　験　者	合　格　者	入　学　者
学生の確保（人）	1　年　次	80 ※ — (80)	458 ※ 5 (470)	458 ※ 5 (470)	95 ※ 3 (110)	85 ※ 3 (102)
	編入学･再入学	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)

	卒業者	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企　業	教　員	公務員			
学生の進路（人）	94 ※ 5 (115)	63 ※ — (82)	58 ※ — (76)	— ※ — (—)	5 ※ — (6)	— ※ — (—)	14 ※ 3 (12)	17 ※ 2 (21)

・（　）は前年度の数値を，※は外国人留学生を内数で示す。

1　国際総合学類の活動

〔教育〕

国際総合学類は，国際的に活躍できる人材の育成を目標として，平成７年度に，国際関係学主専攻からなる国際関係学類に，国際開発学主専攻を加える形で，改編・発足した。21世紀の要請に応えるべく，平成12年度に大幅なカリキュラムの改定を施行し，その後改定したカリキュラムを順調に実施することができた。さらにカリキュラムの点検作業を続け，改善に努めている。

本学類では，上記教育目標を達成すべく授業科目の三分の一程度を英語で教授すること，及び帰国生徒，国費・私費留学生，JTPを中心とした短期交換留学生を積極的に受け入れることに努めてきた。平成14年度においても，部局間及び全学の交流協定校をさらに拡大し，学生の派遣とその受け入れについて積極的に対応した。派遣学生は17名(アメリカ12，オーストラリア３，アジア１，オランダ１)，受け入れた学生は７名(アメリカ６，中国１)である。そのほかに語学研修を目的とした留学も28名にのぼる。

文系工系を融合した総合教育を目指す当学類にとって，インターネットを基盤とする情報通信技術は学類共通の基礎スキルであると認識し，実務を含めたIT教育を充実させた。学生組織である「Knights」に学類コンピュータ室の管理，「Bishop」にWEBページの管理をさせ，実務経験を積ませるとともに内容の充実に努めた。また，将来のアジア地域とのネットワークe-ラーニングによる交流を視野に入れた遠隔地教育の実験を開始した。平成12年度までの教職課程「社会」「公民」，平成13年度からの「英語」に加えて，平成14年度からは「情報」が認定された。

〔学生生活〕

学類紹介誌「明日のExecutive」を見やすくするために，教官の意見も参考にしながら学生主導で，内容を大幅に改定した。就職活動が始まる昨年秋には，全国の主要企業に配布して学類教育の内容及び学生を紹介し，就職市場の開拓に努めた。また，学類主催の就職ガイダンスを行った。就職ガイダンスには，６企業・団体の説明に対して40～110名の学生が参加し，盛況であった。

12年度から取り入れたインターンシップには７名の単位取得者があった。外国でのインターンシップを行う学生もおり，内容的にも充実し，制度が定着してきたことがうかがえる。

2　教員の教育業績評価の状況

平成14年度も学生に対する「教育アンケート調査」を実施し，学類の教育体制全体を評価した。明らかになった問題点を教員会議に報告し，改善策を立てるという方法をとっている。

また，平成14年度には多くの授業科目で「学生による授業評価」を実施した。さらに，将来の全面的な導入を考慮し，全授業科目に対する「学生による授業評価」の導入について引き続いて議論した。

3　自己評価と課題

独立法人化後の学群・学類の再編が検討され始めている現在，カリキュラムにとどまらず学類全般にわたる自己点検・評価の実施を継続する必要がある。特に，文系工系を融合した総合教育を目指す当学類の理念を，学内外に広く理解してもらう必要がある。

4　その他特記事項

平成13年度に加えて平成14年度も，当学類からシステム情報工学研究科への合格者を出したことは，国際関係学類から国際総合学類へと発展してきた総合教育の成果の一つといえる。さらに充実を図りたい。